**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：相手と同じ目線で想像する愛を持つこと**

**お名前：平田　多実**

私は子供の頃、善悪に対して潔癖なところがありました。

子供にありがちな「宿題を忘れてくること」「遅刻してくること」「行事に積極的でないこと」「完璧に掃除しないこと」「テストで点数を取れないこと」でさえ全て怠慢とみなし、怠慢＝悪であるとして切り捨てていました。

幼い私は努力すれば出来ないことはないと信じていました。

できるまで努力することは当たり前であり、出来ないのは努力という善行を避けた結果であり怠慢、つまり悪であると考えていたのです。

その潔癖すぎる努力のおかげで私は先生達から讃えられ模範とされ庇護され、その影響か同級生達も皆私を認め仲良くしてくれました。

しかし同級生達との間にはいつも超えられない壁がありました。

子供特有の気の置けないじゃれあいや他愛もない会話をする気軽な関係はそこにはありませんでした。

私はいつも一段上の存在として奉られており、同列の人間、つまり普通の友達として扱うことは同級生達の中で全くの善意からタブーとされていたのです。

この暗黙の了解は、自分にも他人にも潔癖すぎる私の心が生んでしまった壁でした。

さて時が経ち、中学生、高校生と成長した私は、努力しても出来ないことがあると身をもって知るようになりました。

家庭の事情であったり、心身の事情であったり、環境、金銭、人間関係、その他沢山の事情に左右されて、努力では到底間に合わないほどの苦難を背負うことがあるのだと知ったのです。

そうして初めて、今まで自分が怠慢だと簡単に切り捨ててきた者達の行為にも事情があったのかもしれないと思い至りました。

その時から私は変わりました。

一見ただの怠慢に見える行為や悪行でも、必ずその裏にある事情に耳を傾けるようにしました。

同じ目線で想像し、共感し、分かち合う広い度量を備えるようになるにつれて、昔夢見たような友人関係が構築されるようになっていきました。

そこにはもう模範生とその他一般生徒という壁はなく、対等な立場で高め合える仲間が居ました。

さて、今回のテーマである日韓の問題も南北の問題も、その渦中に居るのは人間です。

人間は私の例がそうであるように行動の理由に思いを馳せることなく、結果だけを見て機械的に善悪を判断し模範を押し付けるような人間を仲間とはみなしてくれません。

ですから手本となり導こうとするのではなく、同じ土俵に立ち同じ目線で問題を捉え臨場感を持って悩みを分かち合えるような度量の広い愛の姿勢が、問題解決のスタートラインに立つためにまず必要なものなのではないでしょうか。